

パンチカードの「重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）」登録

この度、独立行政法人国立科学博物館が実施している「重要科学技術史資料（愛称：未来技術遺産）」に情報化時代の草分けとなった国産最初期の当社製パンチカード「レミントン統計カード」および「IBM統計カード」が登録されましたので、お知らせいたします。

国立科学博物館では、「科学技術の発達史上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つ科学技術史資料」及び「国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えた科学技術史資料」の保存と活用を図り、科学技術を担ってきた先人たちの経験を次世代に継承していくことを目的として、重要科学技術史資料の登録制度を平成 20 年度より実施しています。これまでに 113 件の資料が登録され、今年度は 22 件の登録のうち、紙製品としては制度実施以来、初めて登録されることとなりました。

また、9 月 10 日（火）には東京上野にあります国立科学博物館におきまして登録証及び記念盾授与式が執り行われます。

なお、本制度の詳細や本年度の登録結果につきましては、国立科学博物館のリリース資料をご参照ください。 <http://www.kahaku.go.jp/procedure/press/pdf/159444.pdf>

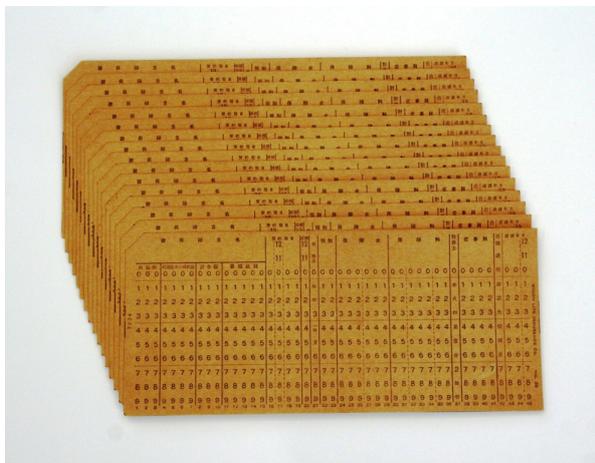
I. パンチカード登録内容の概要

1. 登録番号 第 00129 号
2. 名称（型式等） 【パンチカード】(1)レミントン統計カード(2)IBM統計カード
3. 所有者（管理者） 特種東海製紙株式会社
4. 製作者（社） (1) (2)特種東海製紙株式会社
5. 製作年 (1)1938年頃 (2)1945年頃
6. 初出年 (1)1938年（生産開始） (2)1945年（生産開始）
7. 選定理由

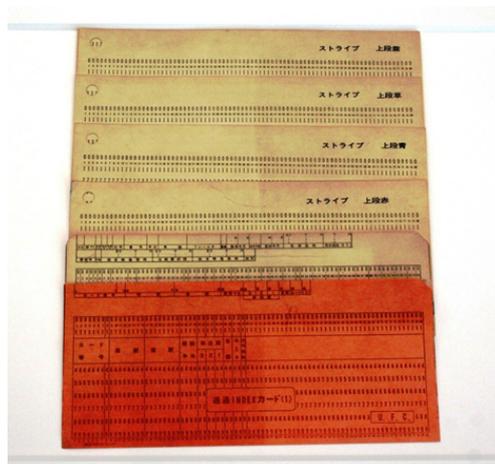
情報化時代の草分けとなった国産最初期のパンチカードである。パンチカードには、耐久性、寸法安定性、静電気の発生低減、パンチ穴の打ち抜きに対する機械的適性などが求められた。処理装置の高速化が著しく進んだ時代に継続的な高品質化が行われ、日本の情報用紙分野の技術力が高められる要因と成った。(1)は、米国レミントンランド社製統計機の国内導入に伴い、情報記録紙の国産化の要望に応じて開発された国産初のパンチカード用紙である。時の鉄道省、統計局、保健局、横浜税関、中部電力など日本における事務簡素化のパイオニアに納入され省力化に貢献した。(2)は、終戦直後に日本 IBM 社の依頼を受けて開発されたパンチカード用紙である。コンピューターの処理能力の向上や高速化に対応して、逐次改良が行われた。

II. 写真

(1) レミントン統計カード



(2) IBM統計カード



III. 本件問い合わせ

特種東海製紙株式会社 管理部 生産計画課長 室伏敬治 Tel. 055-988-1111

特種東海製紙Pam 館長 千葉寿子 Tel. 055-988-2401

以上